

タイ姉妹校とのオンライン交流について

秋田県立大館鳳鳴高等学校 長里 加奈子
秋田県立大館鳳鳴高等学校 Glenn Timoney

【タイ姉妹校との交流の概要】

プリンセスチュラボン科学高校は12校からなり、各校が日本のSSH指定校などと姉妹校提携を結んでいる。大館鳳鳴高校ではそのうちの一つであるブリラム校と2012年に姉妹校提携を結び、現在まで交流を継続している。現在本校はSSH指定校ではないが、今後も交流を続ける予定である。

この姉妹校提携の目的は「教育分野において連携と協力関係を構築し、次世代のリーダーを育てること」であり、具体的取組は①科学に関する学びの交流 ②文化・芸術面での交流 ③学校運営や学習指導の方法・内容の相互理解 ④情報交換 の4点である。以前は直接訪問による交流を基本として、それぞれの生徒と教員が相互に訪問し、理数科の生徒の課題研究発表や生徒同士の交流活動、施設見学、授業への参加、それぞれの教員による授業、大学の先生による実験実習などを行ってきた。

しかし、2020年度の相互訪問が新型コロナウイルス感染症の流行により中止され、その後も訪問再開のめどがたたないことから、2021年度から一人一台端末のクロームブックを活用しオンライン交流を始めることとし、英語でのカジュアルな交流を行った。

【2021年度のオンライン交流会実施状況：4回】

- 1 7月16日 学校紹介・自己紹介
- 2 10月18日 中止 新型コロナウイルス感染症拡大のためタイ側が休校
- 3 11月19日 Food and Culture
- 4 12月17日 Winter Festivals, Christmas in Japan, etc.

各回のトピックは会話のきっかけとして設定し、その後は自由な会話で交流を行った。次回に話題にしたいことについて生徒同士で考えトピックが決まるということもあった。

【2021年度オンライン交流 生徒の感想より】

・緊張したが、自分が言ったことが相手に伝わり、反応してもらったり会話が続いたりしたとき、英語を話す楽しさをととても感じました。次回はより深いテーマについてお話ししたいです。

・初めは私の英語が通じるのかと不安だったが、気楽に姉妹校の方々と話すことができるととても楽しかったし、英語力に自信がついた良い機会となったと思う。

・海外の同年代の人とラフに話すことができるととても楽しかった。シンプルで簡単な英語でもとっさに出てこないこともあり、英語を使いこなすことは難しいと感じた。しかし、うまく伝わっていないと感じたときは言い換えたりして、会話ができたときはとても楽しかった。

・インターネット上では翻訳のアプリなども容易に活用できるが、生身の人間同士でコミュニケーションをとることで、気持ちやテンションも伝えられるのだ、と話すことの力の大きさを改めて感じた。

・オンラインでの交流でなかなか苦労することも多かったのですが、タイの人たちと楽しく交流することができてとても楽しかったです。タイの人たちもたくさんスライドを作ってくれてすぐに緊張をほぐすことが出来ました。ただ、男子3人と女子3人だったのであまり話が続きなくて残念でした。アベンジャーズの好きな人だったのですが、私たちは全然見たことがないし、私は BTS が好きなのですが、相手は全然知らないみたいなので話が弾みませんでした。できることなら女子と交流したかったです。もっと英語力を身につけたいと思ったので、次回の交流までにもっと勉強したいです。

・海外の先生と話すことはありましたが、同年代の人と話すのは今回が初めてでした。好きなアイドルが一緒だったり、自分たちがやっている SNS でもつながることが出来るようにしてくれたり、タイと大館は遠いですが、今までよりずっと身近に感じる事ができました。最初から最後まで「難しい」よりも「楽しい」が勝っていて、続けることでもっと英語を好きになれそうです。単純にたのしかった！！これからの交流を楽しみながら、お互いについて知って仲良くなれるように、自分から積極的に話したいです。

【2022年交流会 事前事後のアンケートより考察】

今年度は第一回交流会の事前事後にアンケート調査を行った。事前アンケートでは、生徒たちは自分の英語力に自信がなく、自分の英語は通じないかもしれないという不安と同時に、他国の人と話したり、友人になつたりしたいという期待も持っていたことがわかった。「普段の英語学習で難しいと感じていることは何か」に対する回答は「文法や語彙」「自分が伝えたいことを正確に即座に表現すること」が多かった。

これに対して、事後のアンケートでは、「次回改善したいこと」については「積極的に話す」「間違いを恐れず会話したい」「聞き取る力」「単語や短文ではなくしっかり伝えたい」「こちらからもっと質問する」などといった、文法や正確さよりもコミュニケーションの継続に関する意見が多かった。また、「自分で思っていたよりも英語が話せた」という感想が多く、自分の英語力についてそれほど自信がなかった生徒でも、同年

代の相手とのカジュアルな環境で英語を使ってみて、「自分で考えていたよりも英語を使うことができるということに気づいた」という回答も多かった。

タイ姉妹校とのオンライン交流会で、生徒達は生き生きと活動しており、英語を使っているという実感と達成感に満ちた雰囲気であった。本校では進学希望者が多いこともあり、生徒たちは英語の学習に対しても比較的前向きであるが、毎回の授業が必ずしもこれほど活発な活動になるとは言えない。授業内でのやりとりの活動として、ディベートやディスカッションも行っているが、これらの活動と比較してみても、タイの生徒との交流は、「異文化の」「同年代の相手」と英語で理解し合いたいという、普段の授業では設定しづらい強い動機づけがあったといえる。このような経験を通して普段の学習に対する意欲が高まり、さらに授業で学習したことを再びこの交流会で生かすという循環が生まれることを期待している。

【今後の課題と解決策】

2021年度はクロームブックを利用して交流を行ったが、オーディオ面では、ヘッドフォンやマイクがないとリスニングや会話が難しくなり、スムーズに交流ができなかった。2年目にあたる2022年度にはヘッドセットなどを購入して上記の問題はかなり解消されたが、これによってインターネットの負担が大きくなり、接続が不安定になるなどの問題が残っている。参加人数についても、タイの生徒の参加者が多く、交流会の人数に偏りがあるので、本校の参加生徒を増やしてより多くのグループを構成する必要があると感じている。交流会のコーディネートに関しては、双方の担当者の交代および交代時期のずれによって、オンライン交流の実施および日程の交渉がスムーズに進まないことが課題であるが、年度のできるだけ早い時期に交渉を開始することで、交流会の回数を増やすことが可能であるとも考えている。毎回のオンライン交流にあたっては、生徒への連絡、ビデオ通話の確認、交流中の接続トラブルの解消など、一回の交流のためにかなりの準備が必要であり、まだ複数の課題が残っている。今後、これらをより簡単にする方法を検討することで、より手軽に、継続的に行える活動としたい。